



創造みらい半田 竹内 功治

### 小中学校の熱中症対策と不登校対策

**問** 過去3年間で熱中症による緊急搬送された児童生徒数を伺います。

**答** 平成30年度は3人、令和元年度は3人、令和2年度は2人です。

**問** 熱中症は運動部の部活動中に多いとのデータがあります。何か対策を行っていますか。

**答** 熱中症警戒アラートの発令状況や暑さ指数を参考に活動の有無を決めています。しかし暑さ指数を測る計測器の数に限りがありますので、今後は数量増を行います。

**問** 新たな対策として、小中学校の体育館にエアコンや冷風機を整備する考えはありますか。

**答** 体育館は学校活動だけでなく災害時に避難所の役割等もあるため、施設整備の更新に合わせてエアコンを整備する考えです。冷水器の整備はコロナ禍で衛生面の不安があるため、コロナが落ち着いてから検討します。

**問** リースでエアコンの整備は出来ませんか。

**答** 整備が出来るのか調査します。

**問** 来年度から中学校の制服が変更予定です。熱中症対策で体操服での通学や授業を受けられるようにしてはどうですか。

**答** 新しい制服はオールシーズンのため、各学校の判断になります。

**問** 過去3年間に不登校の児童生徒数を伺います。

**答** 小中学校の合計で、平成30年度は210人、令和元年度は237人、令和2年度は252人です。

**問** 新たな不登校対策として、不登校の児童生徒のみが通う特別校を開設してはどうですか。

**答** 現在、市で行っている適応指導教室で同様の役割を果たしていると考えています。しかし在籍人数が増加しているため、適応指導教室の拡充を行う予定です。

**問** 適応指導教室の拡充について、その詳細を教えてください。

**答** 空の科学館内にある適応指導教室に加え、10月から乙川や亀崎方面の公民館等で新たな教室を開設する予定です。また適応指導教室でも授業がオンラインで行えるように体制の整備を進めます。



チャレンジはんだ 伊藤 正興

### 家庭系ごみの現状とリサイクル

**問** 有料化後の家庭系ごみの量は、どのように変化していますか。

**答** 令和3年4月から7月の家庭系ごみの処理量は、令和元年度、2年度と比較して、約30%減少しました。また、プラスチック製容器包装等の資源類の合計収集量は、約10%増加しました。分別意識が向上し、ごみの減量、資源化の推進が図られた結果であると判断しています。

**問** 家庭系ごみ有料化がペット用のおむつやシートを除外することの再検討が必要と考えます。見解を伺います。

**答** 有料化の対象外とするごみは最小限に留め、広く市民の皆様にごみ減量に取り組んでいただく、ペット用のおむつやシートを有料化の対象から外す考えはありません。

**問** ゴミステーションへ多言語の案内看板の設置が必要と考えます。今後、設置を進めてもらえますか。

**答** 外国籍市民の多い地区などでは、個別に外国語の注意看板を作成して掲示している事例もあり、今後も地域の実情に即した対応をしていきます。

**問** ペットボトルキャップのリサイクルは、積極的にPRをした方がよいと考えます。見解を伺います。

**答** 市のホームページでは紹介しています。が、今後は専用ボックスに回収後の流れが分かるポスターを掲示するなど、回収の取組みが社会貢献につながることを周知していきます。

**問** 新たに使い捨てコンタクトレンズの容器リサイクルを提案します。ごみ減量化、リサイクル、社会貢献への取組みを始めませんか。

**答** 市内において実施するためには回収方法や回収後の処理方法など解決すべき課題があります。市内のコンタクトレンズ販売店では、既に容器リサイクルを実施している店舗もあるため、こうした取組みを市のホームページ等で紹介し、PR減を呼びかけていきます。



チャレンジはんだ 國弘 秀之

### 自殺のないまちづくりに向けて

**問** 心の問題を抱える方への相談支援体制の整備と周知はどのように行われていますか。

**答** 医療機関や保健所等と連携して支援体制を整備し、関係機関で情報共有、対策を推進しています。周知については、市報やホームページへの掲載、自殺予防の啓発資材等を配布し周知を図っています。

**問** 自殺の兆候がある方への支援方法はどのようなものがありますか。

**答** 状況を聞き取る中で問題の解決に向けた支援に繋がります。

**問** 自殺未遂をした方への支援や家族が不安に思う時の対応はどのように行われていますか。

**答** 自殺未遂をした方は、その後の自殺の危険性が高くなるため、継続的な支援が必要となるので、情報の共有や整理を図り支援できる体制を整えています。

**問** ストレスチェックや心の保健室の効果をどのように評価しますか。

**答** ストレスチェックや心の保健室をきっかけに問題解決に繋がるなど支援の入口になっていることから今後も窓口として継続していきます。

**問** 自殺死亡率の数値目標に向け、どのように取り組めますか。

**答** 各種対策事業を推進する事で目標の達成を目指していきます。

**問** 児童生徒の自殺対策について、心の健康問題を、どのように把握していますか。

**答** 個別に相談を受けたら、個人アンケートを実施する中で定期的に情報交換を行い、チームとして対応しています。

**問** 児童生徒へのSOSの出し方についての教育はどのようにですか。

**答** 各種相談窓口を紹介し、リーフレット等を配布し、保護者の声掛けや見守りの大切さを伝えていきます。

**問** 自殺の兆候が見られた場合の対応はどのようにしていますか。

**答** 教職員が速やかに本人に寄り添い保護者や教職員、スクールカウンセラーなどと情報共有し医療機関などに繋げるなどの対応を行います。

